

発行者 島田療育センター
院長 木実谷 哲史

平成29年度 地域療育等支援事業 実施報告

在宅心身障害児(者)やその家族の地域生活を支援することを目的とし、身近な地域で療育指導、相談等を受けていただけるよう、東京都から受託、実施している事業です。平成29年度の実施状況をご報告します。

【外来療育等指導事業(療育相談)】

【訪問療育等指導事業(訪問相談)】

障害を持つ方、または発達上のご心配のあるご本人、あるいはご家族に対し、専門職が当センター(外来療育等指導事業)あるいはご家庭等(訪問療育等指導事業)にてご相談に応じる事業です。療育相談は、セブンクローバーでの幅広い相談対応と外来受診の円滑化により、相談件数はわずかとなっています。

訪問相談では、疾病やお身体(障害)の状況により外出が困難な方に対し、専門職がご家庭を訪問し、日常生活における対応の工夫を助言させていただいたり、ご不安・ご心配に対するご相談に応じたりしています。その他、外部公共機関での講習会という形式で、「今日からできる!姿勢を育てるためにできること」と題したOT等による姿勢や体幹に関する講義・体験学習、質疑応答の会を2回、ST等からは、ことばが出始めたお子さんとことばが出る前の段階のお子さんを対象に各1回「ことばを育てることばかけ・関わり方」の講義と個別相談の会を実施しました。加えて昨年度は、吃音に関する講義と親同士・子ども同士の交流会や、心理によるペアレントトレーニング・ミニ講座と質疑応答の会を新規に実施しました。本内容は都度テーマを変えて今年度も継続します。

昨年度は例年同様、就学前のお子さんのご利用が多かったことに加え、講習会の内容(対象となるお子さんの年齢)の影響もあってか、小学校低学年のお子さんのご相談も多くありました(表①)。主な居住地は多摩市、次いで八王子市、町田市の順に多く(表②)、昨年度は小児在宅医療や在宅移行支援の充実にあたり医師が対応するケースも増えたため(表③)、総実施件数は昨対比39件増となりました。

【施設支援一般指導事業(施設支援)】

地域でお暮らしの障害のある方を受け入れている通所施設の職員様のご相談に応じる事業で、現場での対応の工夫、配慮などを助言させていただいています。スタッフが施設へ訪問する方法と、施設の方に当センターへ来所していただく方法があります。

平成29年度は83か所の施設に対し、延べ118件のご相談に対応させていただきました。例年と同様に年度当初~1学期中のお申込みは少なめで、生活が落ち着き、状況が見えてくる2学期以降にご相談を検討される施設が多くありました。施設種別では約65%が保育園・幼稚園から、約25%が小学校等のご相談でした(表④)。今年度も当事業の意義を尊重し、理解を示していただきました東京都のご協力により、年度予算を増額いただき、お寄せい

ただきました多くのご依頼に対応させていただくことができました(図①)。

職種別では心理職とSTの対応が多く、発達全般やコミュニケーション、ことばや口腔機能の発達、運動機能や姿勢・体幹に関するご相談に対応しました(表⑤)。

同施設からの複数回のご利用希望に関しましては、概ね年3回程度のご利用に留めていただき、多くの施設に広くご利用いただけますようご協力をお願いしていますが、ご事情がおりになる場合にはご相談させていただきますので、お気軽にご連絡ください。また助言・指導させていただいた内容は、各施設にて職員様間で(時にはご本人・保護者の方々と)共有していただき、さらには他の児童・生徒、利用者様へ活用・応用したり、クラス運営として集団全体に導入したりする等、“その後につなげていく支援”を心掛けていただくこともお願いしています。

今後ともスタッフ一同尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。(社会福祉士 市川 香織)

(表①)療育相談・訪問の対象児(者)年齢(件)

0-2歳	14
3歳 年少児	9
4歳 年中児	15
5歳 年長児	12
6-8歳 (小・低学年)	28
9-11歳 (小・高学年)	8
12-14歳 中学生	2
15-17歳 高校生	0
18歳以上	2
合計	88

(表②)療育相談・訪問相談の相談者居住地域(件)

多摩	八王子	町田	稲城	日野	その他	合計
45	18	14	1	5	5	88

(表③)療育相談・訪問相談の対応職種延べ数(人)

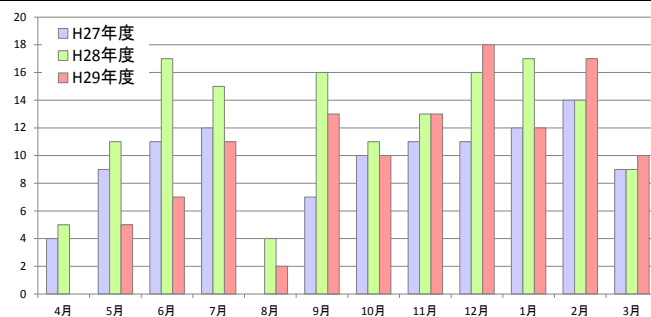
医師	看護師	P	O	S	心理	保育士	SW
7	3	2	6	7	2	0	11

(表⑤)施設支援一般指導事業の派遣職種延べ数(人)

医師	看護師	P	OT	ST	心理	SW	その他
4	7	7	18	45	48	126	16

(表④)施設支援一般指導事業の実施数(施設種別・市別毎)
実:実施施設数、延:延べ実施数

	多摩市		八王子市		町田市		稲城市		日野市		その他		合計	
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
特別支援学校	1	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	4
保育園	17	29	9	12	3	3	4	5	3	4	2	2	38	55
幼稚園	6	10	5	8	2	4	0	0	0	0	0	0	13	22
小学校	4	9	10	11	2	2	1	1	2	3	1	1	20	27
中学校	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	0	0	5	6
障害児者機関	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5	6
学童・その他	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	31	53	27	34	10	12	6	8	6	8	3	3	83	118



「第17回 公開シンポジウム」 「重症心身障害児・者施設の未来と私たちが進む道」

今回のシンポジウムは、入所から在宅・地域へという流れの中で地域において、今後重症児施設が担うべき役割を考えるという趣旨で開催されました。

基調講演をお願いした児玉先生は、施設入所と在宅ケアは対立関係ではなく、地域と施設が補完し合い入所と在宅・地域生活が共存し合える施設が望ましいとお話くださいました。また、入所機能も有期限にするなど多様な利用の仕方があってよいこと、グループホームのような形で地域との接点を産み出していくことなど、たくさんのご提言をくださいました。

話題提供の椎木先生は、現状の在宅支援の問題点をご説明くださったうえで、施設は地域に一定の責任を果たすために明確な在宅支援の方針を立てるべきと強調されました。また、地域の連携強化を図るためにも実践の積み重ねが大切であるとのこと見解を述べられていました。



(堺市立重症心身障害児(者)支援センター
ベルデさかい センター長 児玉 和夫 先生)



(東京小児療育病院
院長 椎木 俊秀 先生)



(河 幹夫 理事長)

同じく話題提供の当法人理事長の河は、今までの障害者福祉は一日を生き延びるためにどうするか考えていたが、どのような充実した毎日を送るかが問われる時代となっていると述べました。その上で、一施設の中だけで事業のメニューを作ることも大切ではあるが、外の事業のメニューの利用も求めていってもよいのでは、と地域との協働の必要性について提言しました。

地域や施設の形態などに違いこそあれ、障害のある方々の個人の尊厳と多様性を尊重した社会の実現に向けて実践されている演者の先生方の熱い思いに大いに元気づけられた会となり、3時間半がとても短く感じられました。当センターの理念には「地域に開かれたセンターを目指します」とあります。この理念を常に心に留め、より良いサービスの提供に向けてこれからも尽力していきたいと思っております。演者の先生方、ご聴講くださった皆様、ありがとうございました。

(支援部次長 山本 秀二)

他機関とのつながり

八王子市スクールカウンセラーの皆さまの
島田療育センター見学会

私ども東京学校臨床心理研究会八王子南地域会は、東京都より都内の公立小・中学校・都立高校に派遣されているスクールカウンセラー(以下SCと省略)の研究会で、定期的な情報交換により地域のSC同士の連携と相互研鑽をはかっております。

今回の施設見学会は、各SCより施設についての個別の問い合わせを幾度かする中で、支援部の方よりご提案いただき、地域会でも賛同の声があがったことから実現しました。

当日(平成29年12月25日)は限られた時間でしたが、施設見学、映像による施設紹介、質疑応答でご対応いただき、私どもには実り多き時間となりました。参加者からは、施設について「丁寧な説明と共に見学させていただき、教員や保護者に現実味をもって安心してご紹介できると思った」「Gトレーニングやビジョントレーニングでお世話になっている子どもがどんな場所・スタッフから療育を受けているのか理解できた」「明るい待合室や大きなガラスの天井が印象的で、利用者がポジティブになれる配慮が感じられた」「利用している子どもの表情も拝見でき『経験として』知る機会となった上、

“セブクロバーという良いトレーニング機関がある”と自信を持って提案できるようになった」といった声が寄せられました。また、映像紹介・質疑応答については「歴史や仕組みを知ることができた」「実際に支援に携わっている方、Dr.からのお話を伺えて参考になった」「地域に開かれた療育機関としてスタッフが一丸となって尽力されている様子が伝わった」との声がありました。見学後「翌日相談をし、丁寧に対応していただいた」「電話で、お顔の分かる方から具体的な情報をいただくことができた」と、連携に生きた例も報告されました。参加者一同、有意義な会だったと実感しています。

この度はお忙しい中、所員の皆さまに丁寧企画・対応していただいたことを心より御礼申し上げます。今後どうぞよろしくお願い申し上げます。

(東京学校臨床心理研究会
南地域会
八幡 朝子 先生)



MAPCAP研修報告

3月26日(月)厚生棟研修室にて、全職員を対象とした虐待防止研修を実施しました。今年には会津大学短期大学部教授の市川和彦氏を講師にお迎えし、『虐待を防ぐために』というテーマで一時間の講義を受けました。

難しくて固い内容ですと聴いているうちに意識が遠くなってしまいそうですが、市川先生のお話は静かに心に沁みて、共感できました。

人間は虐待をしてしまう存在で、虐待の根底には「他者を支配し操作したいという欲求」があり、支配可能な環境においては誰もが虐待者になり得る、というお話はとても衝撃的でした。しかし、差別や偏見を生み出すのが人間なら、なくすことができるのも人間である、という言葉に救われた思いがしました。他者への関心を持つこと、人や自身の言動について考えたり感じたりすることなど、



(会津大学短期大学部 教授 市川 和彦 先生)

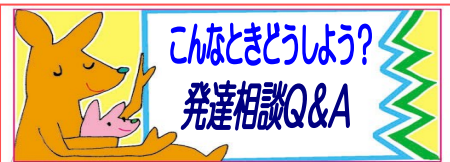


日常のほんの小さな気づきが、虐待防止への足掛かりになることを学びました。虐待に至るメカニズムと、虐待をなくすための処方箋6種類は、とても参考になりました。

人間の可能性について考える、内容の濃い一時間となりました。これからも、職員同士が声を掛け合い、利用者様と笑顔でふれあえる、「虐待のない風土作り」をしていきたいと思いました。

外来やリハビリの職員は診療や訓練の予約があり、病棟は交代勤務のため研修に全員が出席するのは困難ですが、参加できなかった職員には講義の映像による補講研修を2回実施し、研修当日を含み総計218名が受講しました。

(ケースワーカー 宮田 雅美)



Q

表情、発声、視線によるコミュニケーション、また手を引いて示すことはできるのですが、ことばが出てきません。ことばを引き出すために、何か家でできることはありますか？



A

ことばとは、相手に伝えたい内容を、実物を見せる代わりにそれを表す記号で表現することです。それは発声であったり、身振りであったりするわけですが、ことばが育つにはその土台となるコミュニケーション(相手に伝えたいことを伝えること)の発達がとても重要です。コミュニケーションが育つには、①本人が伝えたいものがしっかりとしている(興味の育ち)、②相手と意図や情報を共有することに関心がある(はたらきかけに応じてもらえる満足感の育ち)、③指さしや発声によって大人の注意を引けることが分かっている(認知面の育ち)など様々な育ちが密接に関係しています。

相談にあるお子さんの場合、興味をしっかり持つことや大人の手をひくことで自分の要求を実現することができると言えます。この時期には簡単なことばの理解が始まっていることが多いですが、もしことばの理解がまだ始まっていないようなら、興味のある対象と大人を同時に意識できること



(共同注意と言われます)がまだ十分にできていないのかもしれませんが、共同注意ができることは、興味があるものを指さすと大人が、「あ、ブーブね」と応じてくれ、物には名前があることが分かってくるといった具合に、ことばの理解や模倣(真似すること)を促すことにつながります。共同注意がまだ十分ではない場合、お子さんが興味を向けているものの名前を、ジェスチャーなど視覚的な情報をつけて言ってあげると、お子さんの注目やことばの理解を促すことにつながります。もし簡単なことばが分かっているようなら、模倣を促すことがおすすめです。おいしいね、バイバイなど日常的な動作を、はじめはお子さんの手を持ってあげて模倣させてみてはどうでしょうか？きっと、大人の真似っこが楽しくなり、身振りの模倣からことばの模倣につながるはずですよ。

(言語聴覚士 藤本 淳平)

おしらせ

OT講習会

今年もOT(作業療法)科主催の講習会を開催します。
日時 ①H30年9月2日(日)

「姿勢の話」

②H31年1月19日(土)※予定※

「お箸の話」

時間 10:15~11:30(受付9:45~)

場所 パルテノン多摩4階 第2・3会議室

①姿勢の話では、姿勢が崩れやすい原因と、姿勢を育てるためにできることをお話しいたします。②お箸の話では、お箸の練習をしていくコツをOTの視点からご紹介していきます。



公式facebookを開設しました

平成30年6月より、島田療育センターの公式facebookページを開設しました。当センターで行われているイベントや講演会のお知らせ、グループ指導のご案内や活動紹介などを随時発信していきます。ホットな情報をどうぞお見逃しなく!

https://
www.facebook.com/
shimadaryoikucenter/



地域療育等支援事業

①外来療育等支援事業(療育相談)

運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

②施設支援一般指導事業(施設支援)

発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

③訪問療育等支援事業(訪問相談)

地域施設や家庭へ赴いて、健康診査や介護指導などを行います。

費用：無料です

ティーチャートレーニング

発達支援センター[セブクロバー]では、近隣地域の先生方を対象に、発達障害など特別なニーズのあるお子さんへの具体的な支援方法を検討する連続講座を開催します。講座では、応用行動分析の視点からお子さんの行動を理解し、特性に合った対応方法を学びます。また、グループワークで事例検討を行い、お子さんへのより良い対応について先生方で話し合いを深めていただきます。講義の内容、申込先など詳細はホームページをご参照ください。

クラスのお子さんへの支援について一緒に考えていきましょう!皆様のご参加をお待ちしております!

日程 8月6日(月)~7日(火) (2日間の連続講義です)

時間 10:00~17:00

申込締切 7月13日(金)必着



お申込・お問合せ先

支援部

042-374-2101

受付時間:月~金 9:00~12:00/13:00~17:45

発達支援センター

セブクロバー

<お子さまの発達相談はこちら>

セブクロバーでは、コミュニケーションやことば、運動などの発達にご心配のある方からのご相談に応じています。当センターの心理判定員・作業療法士(OT)・言語聴覚士(ST)が、保護者さまのご意向をお伺いし、お子さまにあった対応を一緒に考えていきます。個別・グループ療育・保護者さまの相談などを行っています。

まずはお電話でご相談をお伺いしますので、どうぞお気軽にお問合せください。

<講演会・研修会開催ご希望の方はこちら>

当センターの専門職が講演会・職員研修などの講師をお引き受けします。

【過去の実施例】

「生活の中でできる遊びや関わりについて」(OT)

「1、2才時の発達段階に合わせた食習慣作りについて」(ST)

「子どもの気になる行動の理解と対応~ABC分析や機能分析に基づいて~」(心理)



<訂正とお詫び>

第25号1面11行目の記載に間違いがありました。(誤)マクドナルド・マイヤー氏 (正)ドナルド・マイヤー氏 訂正し、お詫び申し上げます。

編集後記

先日私の大好きな陶芸家のトークショーに行きました。野の花々をモチーフにした作品が多く、花たちを見ていると「わたしは黄色です」「わたしは紫よ」と語りかけるように聞こえ、愛おしい気持ちになるとお話しされました。「蒔きもせず蒔ぎもせずに安らかに生きる」野の花たちを見て、作家の優しい気持ちが込められた作品は、食卓を彩るだけでなく、食器洗いの時も、私を幸せな気持ちにさせてくれます。ただそこにあるだけで、ただそこにいるだけで私たちは大切な存在と学生時代に習いましたが、その気持ちを常に持ち続けたいと、可愛い花の食器を見て改めて思いました。(高野)

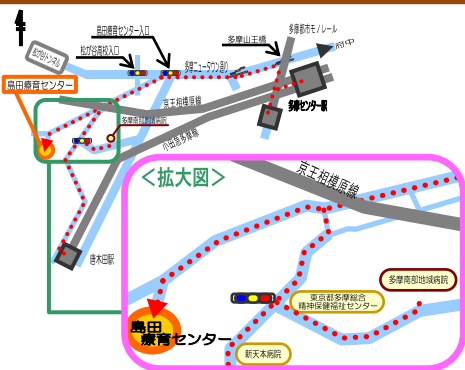
編集 : 社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部

住所 : 〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

電話 : 042-374-2071(代表)

E-mail : info-room@shimada-ryoiku.or.jp

URL : http://www.shimada-ryoiku.or.jp



(徒歩)
多摩センター駅下車
一約20分

(バス)
多摩センター駅
バスターミナル12番
乗り場
「南部地域病院」行き
一約7分
終点「南部地域病院」
下車→徒歩5分

